industria 社員インタビュー

2025 年 7月

イノベーション
墨田　龍生

industriaの新たな顔を作る

■人とのコミュニケーションっていいな

――学生の頃に夢中になったことはなんですか？

　アルバイトに夢中でした。コロナで学校に行くことができず、一人暮らしでやることもなかったため、アルバイトに勤しんでいました。しかし、飲食店だったのでコロナで営業停止になり、営業を再開しても売り上げが伸びませんでした。ーバイトでしたが社員さんたちとどうしたらいいかを話し合い、少しずつ売り上げも戻りました。

　夢中でしていたので売り上げが伸びないと悲しかったですし、お客さんが来るとうれしかったです。飲食店なのでお客さんと会話をすることもあり、やっぱり人とのコミュニケーションっていいなと感じました。

――なぜindustriaを選んだのか教えてください

　色々な企業を見ていく中で「世界中の子供に綺麗な水を届ける」という大きい目標に最初惹かれたのが大きかったです。

　その後会社説明会に社長が直接足を運んでいて、他の会社だと社長が直接出向き、学生に向かって話をしていることがありませんでした。そこで社長の思いや考えを聞き、社長の思いに更に惹かれ、入社したのがきっかけです。

■諦めずにとにかくトライ＆エラーでやっていく

――１番夢中になったこと、また大変だったことはなんですか？

　開発の話になるんですけど、夢中になったというよりこれをひたすらやり続けたってことです。会社の方針として、どんどん新しい製品を出していこうと言われていました。しかしなかなか新製品を出せていない状況で、僕は部署の中で１番に出してやろうという気持ちがありました。トライ＆エラーを繰り返して、うまくいかないことの方が多かったですが、少しでも進展があると嬉しくて、楽しいです。

――忘れられない出来事はなんですか？

　最近開発の中で、大きな進展があり、自分が作業をしているところに、たまたま社長が来てくださいました。社長に良いテスト結果を報告すると、すごく喜んでくださり、握手をしていただきました。それがとてもうれしく忘れられない出来事です。社長がいろんな方に伝えてくださったようで、その後他の人たちからも「よかったね」と声をかけていただきうれしかったです。

社長と握手したシーンを再現

――それらを通して学んだこと、成長したと感じたことはなんですか？

　諦めずにとにかくトライ＆エラーでやっていくことです。それを繰り返してこの間の大きな前進につながりました。諦めずにいろいろ試して続けることの大切さをめちゃくちゃ学びました。 諦めるのは簡単ですけど、どれだけ粘り強く続けられるかが開発という仕事の肝であると感じました。

■周りの人への毎日の感謝

――自分の信念、大切にしたいと思っていることはなんですか？

信念は周りへの感謝です。幼少期からずっと思っていましたが、１番強く思い始めたのが大学の時です。大学の時に一人暮らしをしていて、コロナで大学がオンライン授業になり、ずっと家で一人という状況が長く続いていました。精神的につらい時間も多かったのですが、その時に友達と電話したりゲームしたりとオンラインでつながることができ、とても救われました。そのとき自分は周りの人に恵まれてると思いました。このような経緯から、周りの人には常に感謝を忘れずにいようと、強く思いました。今でも自分一人では何もできないので、周りの人ありきで成り立っているものだと思います。そのため、やっぱり自分の周りの人には常に感謝と敬意を持って接することをずっと自分の中で大切にしています。

――ものづくりをどう考えていますか？

RPGのようなゲームに似てると思っています。ゲームは世界平和というゴールを目指して、仲間を集め、色々なものを準備し、敵を倒していきますよね。様々な物を集めていく流れが結構ものづくりに似てるなと思っています。開発の仕事に置き換えると、世界の水問題を解決するというゴールのために、新しい製品が必要だと考えます。そのために、沢山の人と協力しながら何があれば完成するかを考え、色々挑戦し準備していきます。この流れがゲームと似ているなと思いました。

――今の自分のレベルはどれくらいだと思っていますか？

レベル60でクリアするゲームで例えたら、今はレベル20くらいだと思っています。現状はちょっと強めの敵を目の当たりにして、倒すために色々準備しているところですね。そんな風に考えると楽しく仕事ができます。

――ここまで２年かかったのでここから更に４年くらいかかりそうですか？

もしかすると思いがけないバグのようなものを見つけて、4年と言わず一気に進める可能性もあると思っています。現実世界でも、突然何か降ってくるかもしれないと思っています。そういうところにもゲーム性みたいなものがあって面白いと感じます。

■変化を恐れず挑戦し続ける

――会社を動物に例えるとなんですか？

ラーテルです。「世界一恐れ知らずの動物」とも呼ばれていて、変化や困難をものともしません。多くの会社では変化を避けることもあると思いますが、industriaは変化を恐れず挑戦し続ける文化があります。またラーテルは様々な場所に生息してます。industriaが幅広い業界で自社製品を展開している点も似ていると思います。

ラーテル

――industriaの一番の魅力、好きなところは？

上下関係なくみんなの距離感が近いというのは、魅力の一つだと思います。社長がフラフラと一新入社員のところにやってくるということは他の会社ではなかなかないと思います。会長も現場で一緒に作業を行っています。社長や会長が近くにいてすぐに話ができ、 技を見せてもらえ、いろいろ教えてもらえるというのはとても貴重なことだと感じます。それはやっぱりindustriaならではの環境であり、すごくいいなと思っているところです。

好きなところは、本当に困っているとき誰かに相談したら、すぐにみんな協力してくれることです。声をかけると、どんどん人が集まってきて助けてくれます。上下関係なくみんなが協力してくれるというのは めちゃくちゃいいところだと思います。

――具体的に助けてもらってありがたかったことはありますか？

常日頃から思っています。わからないことばかりなので、すぐに近くの人に聞いています。今だとワークスという製造部の近くで作業しているので、加工の仕方や部材の場所などはすぐに詳しい人に頼って聞いています。なので常日頃からずっとありがたいと感じています。

――industriaに改善してほしいこと、変えていきたいことはありますか

作業環境は改善してほしいなと思っています。僕の席はエアコンの風がダイレクトで当たるので夏は寒くて冬は暑い状態です。ただし、もうすぐ新工場ができるので作業環境の改善はすぐに実現します。

■挑戦していろいろやっていける

――industriaのDNAとはなんだと考えていますか？

変化を恐れず挑戦するところと、困った時はお互い様というところです。これはこれまで話してることと一緒なんですけど、うちはとにかく挑戦するみたいなところがあります。新しく挑戦したいと言うと全然否定されず、いいよやってみようって言っていただけます。これはめちゃくちゃいいなと思っています。若いからあんまり意見を言いづらいということはなく、フラッと言った意見や、ちょっと思ったことを言ってみただけでも、それが意外と通ったりします。挑戦して色々なことを経験できるということは、すごくindustriaらしいというか、ずっとこれが続いてきたんだろうなと感じています。

――具体的に自分の提案が通ったことはなんですか？

開発の話ばかりになってしまうんですけど、開発の中で試作品を一回作ってやってみなきゃいけない時です。試作を作るにはお金がかかりますし、失敗してやり直すこともあります。ですが、こういう物を作りたい、こういう設計にしたいと社長や上司に相談すると「じゃあ一回作ってみなよ」とすぐにOKしていただけます。試作で物をつくってもうまくいかなかったら無駄になりますので、言いづらいと思うときもありますが、上司に伝えてみると「いいじゃん！」と言っていただけます。また、社長自らが部品の手配をして試作品が完成するように頼んでくださることもあります。そういう自分の挑戦ややりたい事をサポートしてくださる環境があるので、開発がしやすいです。

■FILSTARはindustriaの結晶

――FILSTARの最大の特徴、魅力、アピールポイントはなんですか？

僕の部署ではFILSTARを直接扱ってるわけではありませんが、FILSTARは「industriaの結晶」であると思います。

技術はもちろん、これまでのindustriaの歩みや、人柄、カルチャーといった「らしさ」がすべて詰まっている製品だと思います。うちの全てが詰まったFILSTARを世に出せていることは、industriaの最大の強みでありうちを魅力的にしている大きな要素だと思います。industriaといえばFILSTARと思ったので結晶と表現しました。

――FILSTARに関連している最も思い出に残っていることを３つほど教えてください

１つ目は自分が展示会でアテンドしたお客様が後日展示会経由で購入してくださったことです。
営業の方からアテンドしたお客様が購入してくれたと連絡があったときはすごくうれしかったです。

２つ目も展示会に出展した際のことです。お客様になかなか自社ブースに立ち寄っていただけず、来ていただいても製品の良さを自分の力不足で伝えられませんでした。FILSTARが提供するソリューションや付加価値に興味を持ってもらえず悔しい思いをしました。

３つ目は営業に同行させてもらった際のことです。工場の機械にFILSTARがたくさん搭載されているのを見ました。こんなに大規模な工場の全ての機械にFILSTARが使われているのがすごいと思いました。自分が開発した製品も、ここの機械全部で使われていると言えたらめっちゃかっこいいと思いました。既についているFILSTARを見て、自分も絶対にFILSTARに並ぶ製品を作るぞと決意したので、とても記憶に残っています。

――FILSTARをご購入いただいたお客様からどんなことを言われたらうれしいですか？

FILSTARってすごいと言ってもらえることが１番うれしいです。先ほども言ったようにindustria＝FILSTARのようなイメージが自分の中にあります。そのため、「買ってよかった」「FILSTARってすごい」といわれたらindustriaがすごいと会社自体がすごいと褒められたように感じます。

■「やっっとかぁ」

――ほかに思い出に残っていることはありますか

先ほども話した社長と握手をしたことはやはり自分の中でとても大きいです。今までなかなかうまくいかないことが多く続いていて、やっとうまくいきました。立って握手をしましたが腰が抜ける感じで足がぶるぶるしていました。
「やっっとかぁ」と２０分ほど頭がうまく働かず何にも手につきませんでした。やっと大きな一歩を踏み出せたと感慨深いものがありました。

■アリの一歩でもいいから

――industriaという会社のDNAは、あなた自身の夢の実現にどう役立ちそうですか？

FILSTARと肩を並べる(超えられる)くらいの会社の新たな顔となる製品を開発し、世界の水問題を解決したいと思っています。うちの特色は変化を恐れず挑戦できる環境や、従業員同士の距離が近くてすぐに協力してくれる人が周りにいる環境だと思っています。このカルチャーはとてもいいものなのでこの環境を大事にしながら目標を達成できるように日々精進していきたいです。アリの一歩でもいいからとても小さな一歩でいいからずっと進んでいきたいです。将来会社の顔となる製品を開発したのは自分と言えるようにがんばっていきたいです。

レーザー加工機で作業することもあります